〔地域課題討議　報告〕

福岡大学における就職支援について

佐賀大学経済学部教授　井上 亜紀、同　山本 長次

福岡大学における就職支援について

佐賀大学経済学部
（井上・山本）

1　調査の概要

⑴調査の目的

佐賀県内への就職を促進するために、佐賀県内の高校を卒業した生徒の多くが進学する福岡の大学・専門学校において、①どのような就職支援が行われているか、②就職支援・就職活動で何が重視されているか、を調査する。

⑵調査の方法

2021年12月10日(金)14時30分より、福岡大学キャリアセンターにおいて、キャリアセンター事務室室長補佐に聞き取り調査を行った。

2　福岡大学の特徴

福岡大学は、文系4学部（人文、法、経済、商）、理系5学部（理、工、医、薬、スポーツ科学）からなる私立総合大学であり、在学生数はおよそ2万人である。

3　主な就職先（2020年度）①（業種別、規模別）

- 業種別就職先

卸売業・小売業22.3%、サービス業18.5%、情報通信業9.5%、建設業9.3%で、教育・学習産業、金融業保険業、製造業、公務員と続く。

- 規模別就職先

資本金100億円以上が12.5%、10億円以上100億円未満が16.1%、1億円以上10億円未満が20.4%で1億円以上の企業を合わせると49%、1億円未満は32.5%、官公庁・非営利団体等が18.5%である。従業員数別では、500人以上が45.9%と約半数を占めている。

3　主な就職先（2020年度）②（地域別）

- 地域別就職先

福岡市が34.0%、福岡県全体で45.1%、九州全体で55.9%。関東地方への就職は、30.9%である。

2020年度の佐賀県への就職は、82人で2.5%である。

＊例年、福岡30%、関東30%、九州全体で半分くらいである。

4　地域別出身者数（2023年3月卒業予定者）

- 福岡県65.6%、佐賀県6.4%、熊本県4.6%、長崎、大分、鹿児島各県3.3%で、ほぼ90%が九州・沖縄出身者である。
- 九州以外では、中国地方が多く（6.4%）で、その他の地方はほとんどいない（1%以下）。

＊中国地方は、広島くらいまでが多い。

5　就職支援体制について①

- キャリアセンターは主に文系の学生の就職支援を担当している。
  ＊理系の学生については、各研究室で就職指導があるため。
- センターの専任職員は13人。各学部に、キャリアセンター委員、就職担当の教員がいる。
- リクルビ、マイナビへの委託をやめて、大学独自でガイダンス、相談等を行っている。
  ＊ガイダンスを自前でやることで、学生の相談件数が増え、年間12000件ほどの相談がある。
  ＊相談を受けていた学生との間で信頼関係が生まれ、OB、OGの説明会につながっている。
- 説明会、留学生支援については、ハローワークとも連携して行っている。

5　就職支援体制について②

- 卒業時に就職が決まっていない学生については、卒業後も登録させるようにしているが、ほとんど相談等はない。
- 卒業していったん就職した学生についても、受け付けている。

6　企業説明会について①

- 1月末に160社参加の合同説明会を2日間、70社参加の説明会を2日間開催している。
- 2月は、福岡以外の九州、山口、広島の各県5社の企業説明会を5回ほど開催しており、60名ほどの参加がある。
- 県単位の相談会も開催することがあるが、7、8人の参加者しかいない。
- 企業等からの説明会の希望が多いので、市単位での説明会を実施するのは難しい。

6　企業説明会について②

＊特に大企業である必要はないが、何かアピールポイントがある方が、学生に評判がよく、支援担当者としても学生に紹介しやすい。

＊若手の育成・活用に熱心であることや社員の雰囲気の良さを伝える方が、学生に評判がいい。

＊熱意が感じられない、あるいは、上からのプレゼンは、不評である。 そのため、どちらかというと、若い人のプレゼンの方が評判がいい。

7　インターンシップについて

- 企業からの申し込みに応じて、学生に紹介している。
- 授業がある時期のインターンシップは紹介していない。
- 学部学科によって、単位として認定している
  ＊工学部土木学科（？）では必修。インターンシップ先は教員が開拓している。
- インターンシップ先としては、福岡が多い。

＊インターンシップと就職の結び付きはそれほど見られない。

8　地元就職について①

- 特に地元就職を進めようという目標は設定していない。
- 福岡を希望する学生が多い。
  ＊関東に就職する学生の中にも、最初は福岡での就職を希望していた学生が含まれる。
- 出身県への地元就職（Uターン就職）をする学生は、当初から希望している学生が多く、自分で地元の企業を探してくることもある。
- Uターン就職を希望する学生については、大学が直接企業を紹介するというよりは、その地域の企業が参加するガイダンスを紹介することが多い。

8　地元就職について②

＊例年、15%から20%の学生がUターン就職している。

＊特に大分出身の学生は地元志向が強い。例年35%くらいがUターン就職している。

＊「地元愛」が高校生までの間に育っている。説明会等は、あまり効果を感じられない。

＊地元であれば、特に企業、業種等はこだわらない学生が多い。

＊宮崎県は、30歳くらいでのUターンが多いと聞いている。

9　まとめ

- 文系の学生はキャリアセンターが担当し、理系の学生は研究室の教員が担当している。
- 年間12000件ほどの就職相談があり、相談を受けていた学生に企業説明会に来てもらうことも多い。
- 合同説明会は回数も多く、参加者も多いが、県単位の説明会は参加者が少ない。
- 企業にアピールポイントがある、または、人事担当者の親しみやすさが、人材確保につながる。
- インターンシップも行っているが、就職との結び付きはあまり見られない。
- 15%から20%の学生がUターン就職をしている。
- Uターン就職をする学生は、入学当初から希望している学生が多い。